

1

卒業研究(計画)一覧

機械工学科

長田重慶・伏見恒夫研究室

(機械加工)

玉木保研究室

(応用力学)

渡辺寛・梅崎栄作研究室

(設計工学II)

池田義雄・小倉勝研究室

(熱工学)

酒井茂紀・宮爪肇研究室

(特殊加工)

鈴木昭研究室

(機械技術史)

窪田英毅研究室(設計工学I)

漆原富士男・佐藤茂夫研究室

(金属材料)

有賀奎則研究室(機械要素)

松本正勝・横谷真一郎・渡辺高幸研究室

(流体工学)

町山忠弘・寺島幸雄研究室

(制御工学)

電気電子工学科

富地邦夫・大久保勝弘・青木収研究室

(電気機械)

原田達哉・佐伯正盛研究室

(高電圧・放電現象)

中道一郎・石川豊研究室

(電気材料・半導体プロセス)

(電動力応用)

堀口光敏研究室

堀田勝喜研究室 （電気材料）	八田 達・日下部佑研究室 （電子技術）	廣瀬治男研究室 （電子通信工学・物性）
高橋篤夫研究室 （材料部品・計測・制御）	石田之則・高橋明速研究室 （通信工学・光応用）	
渡辺 勲研究室 （生体情報処理）	山口義昭研究室 （光通信・光電磁界論）	谷澤 茂研究室 （超音波・音響・電子回路）
松田郁夫・丹羽次郎研究室 （情報工学・システム工学）	片山茂友研究室 （マイクロコンピュータ応用・教育工学）	
榮野愈士研究室 （マイクロコンピュータ応用）	■ 建築学 科 宮坂修吉研究室 （建築計画・意匠）	高橋 恒研究室 （地域計画）
北後 寿研究室 （耐震構造工学・都市防災）	高橋久雄研究室（材料・構造）	村口昌之研究室 （建築意匠・計画・設計）
渡辺勝彦研究室 （建築史・建築設計）		
小林啓美研究室 （地震工学）	桑原文夫研究室 （地盤工学）	波多野純研究室 （都市史・建築設計）
伊藤庸二研究室 （建築計画・住環境計画）	榆井武一研究室 （環境工学・都市設備・病院建築）	
小竿真一郎研究室（環境工学）	岩隈利輝研究室 （建築計画・農村計画）	高橋雅充研究室 （建築構造）

川村清志研究室		大岸文夫研究室 (建築計画・建築設計)		西山光昭研究室 (材料・構造)			
實井光男研究室 (建築材料・腐食工学・海洋工学)		福田成二研究室 (都市計画・地域計画)				(建築材料・構法)	
黒津高行研究室 (建築構法・建築復元計画)		加村隆志研究室 (耐震構造工学)					
野口卓也研究室 (品質管理)				■ システム工学科		榎田昇研究室 (光電物性)	
原利次研究室 (熱流体システム)		石川博章研究室 (省エネルギーシステム)		渡部敏研究室 (生体情報処理)			
		中村洋一研究室 (画像素子材料)		梶井昭二研究室 (電磁気計測)		伊原征治郎研究室 (エネルギー工学・システム理論)	
		三宅正二郎研究室 (表面工学)		鈴木清研究室 (先端素材加工工学)			
				鈴木敏正研究室 (マイクロエレクトロニクス)			
		正道寺勉研究室 (数値計画)		飯倉追雄研究室 (情報技術)			
		塚林功研究室 (プラズマ)		鈴木康之研究室 (化学工学)		竹内淳彦研究室 (工業地理学)	

平成5年度
卒業生名簿
3月20日付 確定者

機械工学科

機械工学科

平成5年度
卒業生名簿
3月20日付
確定者

電
気
電
子
工
学
科

建
築
学
科

シ
ス
テ
ム
工
学
科

定年

退職にあたって

本年度をもって、教養科教授高橋磯一先生、機械工学科教授田中義雄先生・同松本正勝先生、電気工学科教授八田達生先生・同中道一郎先生・同高田邦夫先生・材料試験研究センター教育技術員柏倉英雄先生の七先生が御定年をむかえ、本学を去られます。これら諸先生方から良き薫陶を受け、多くの思い出を持って、そして五先生に、御定年に当たってのお言葉をいただきました。

退職にあたって

松本正勝



私が日本工大にきたのは、一九八三年四月でした。ちょうど二十一年に在職したことになります。この間修士七名、卒研生約二百名を育てました。流体工学研究室には空気流、検定風洞など流体計測の基本設備を整備し、小型圧縮機試験装置、タービン試験装置など流体機械の研究装置を設置し、更にターボチャージャーを利用した小型ガスタービン試験装置も設備しました。又学生をコンピュータに習熟させるため、パソコンの設置を進め現在は十台になっています。これらを使って修論、卒研を行って卒業した学生は、就職後もこの経験を生かして職場で活躍している様です。

既に、結婚した人も多く、連絡を保っている人も少なくありません。講義科目の流体の力学では基本を重点的に教育し、将来の応用に応じられる様にしました。又流体機械の科目では機械全般に関する基本的な考え方を教えると共に、現存する流体機械全般にわたって理解出来る様教育しました。講義の場合は毎回の時の要点について小テストを行い、各人の理解度を確かめると共に理解不足の所は次回で補強しました。その方法について最後に学生の意見を聞いた所、毎学年共、理解を確認出来るためよい方法であったと学生から評価されました。卒業後十年以上経った人から教育内容、教育方法について意見を聞けたら面白いと思います。この間、華中理工大学で一回、キンクモント工科大学で一回、同講義を行いました。また工技術博物館に「ターボガスタービン（一万馬力）」を保存展示出来たことは窪田前理事長と大川現理事長、学長の御英断によるもので、我が国ガスタービン界が広く感謝されており、本学の名が広がりました。

卒業生諸君
おめでとう！

中道一郎



卒業生諸君おめでとう！諸君にとって日本工業大学を過ごした僅か四年ばかりの歳月は、後年必ず生き生きとすることでしょう。卒業生諸君おめでとう！諸君にとって日本工業大学を過ごした僅か四年ばかりの歳月は、後年必ず生き生きとすることでしょう。卒業生としての誇りを持って技

時間の経つのが早く十分な教育が出来なかつた事に残りですが、卒業生の将来を見守って行きたいと思つております。又本学が二十世紀に向けて更に発展と行くことを祈っております。

(機械工学科教授)

退職にあたって

八田 達



私が本学に職を離れるようになったのは昭和五十二年四月、民間会社の工務技術者として約二十四年間働いたあとである。当時は学園も若く、私も教授としては最年少に近かつた。今年三月に定年を迎えたが、在職期間は十七年ということになる。過ぎ去つた歳月を顧ると一瞬のことであつたような気がするが、一年一年回顧する

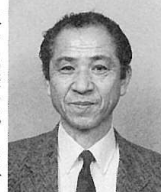
術者として日々地道に研鑽を積むことが何よりも一番大切な事だと思ふ。ところで私も、諸君と一緒に日本工業大学を卒業することに決まりました。つまり三月一杯で定年退職となります。創立以来、加えても大変な事もありましたがお蔭で楽しく仕事をすることが出来ました。これはひとえに周りの方々のおかげで、最後になりましたが皆様の御健勝を祈念いたします。

(電気工学科教授)

「それにつけても君の欲しいさよ」というのがこの頃の心境である。世は神武以来の景気であり、大学はこれからの時代を迎えるといわれる。しかし、多くの人材を擁し、純真な学問を志した本学は必ずや多くの困難を突破し、隆昌の氣運を続けるものと信ずる。学内の人の和と更なる発展を心よりお祈りしたい。

(電気工学科教授)

雑感
池田義雄



早いものである。この二月に古希を迎えることになったが、正に光陰矢の如しである。振り返ってみると、本学にお世話になつて以来十五年の歳月が流れたことになる。十年一言と言われるが、私にとっては、あつたという間の出来事のような気がする。これも、若い、生きのよい若者と御付き合ひたいと戴いたこと、諸先生方への厚情にによるものと感謝してゐる。教えること云々の難しさ、どうすれば興味を持ってくれぬか、意欲を出させるには等、試行錯誤の連続であつたと思ふ。

碎啄の機を作る
高橋磯一



一、信濃の国は十州に城連ぬる国にして、嶺ゆる山はいや高く、流るる川はいや遠し。松本伊那佐久萬光寺

物理工学科に改名して最後の一年を過ごした。当然の事ながら就職は皆無、日本全体がどん底の状態であつた。以来四十余年、いまや世界の経済大國となつたわけであるが、考へてみれば、最悪の状態も経験できたわけであり、いまでも可なり事に耐え得る自信はある。年寄りに負けないよう大いに頑張つてほしい。日本工大の更なる発展を諸君の活躍に託す。取り留めのないことを書いて、長い間有難うございました。

(機械工学科教授)

四つの平は肥沃の地、海こそなければ物さわりによらず足らぬ事をなすこと、啄とは鳥が外から殻を噛み砕くこと、碎啄の機とは、たとひ時機を失した、またと得難いハ時機を片時も忘れずに教育に携わつてきました。教育の場においては、教育効果を最大限に発揮するためには、教師と学生の間に、碎啄の機を作ることが大切で、この碎啄の機を作ることが教師に与えられた責務ではないでしょうか。

(教養科教授)

人物往来

△張興敏・華中理工大学外事処副処長。本学来訪訪問。(十一月十五日)
△黄承章・華中理工大学副校長。産学交流状況調査のため来学。(十一月十六日・十七日)
△特別講演中国における建設技術の教育と研究(十一月二日)
△黄一天・華中理工大学之研究所長。同大学との学術交流

叙 勲

平成五年秋の叙勲に際し、機械工学科松本正勝教授が、科学技術研究功により勲三等瑞宝章受賞(十一月三日)

平成5年度
優秀クラブ・選手表彰

平成五年度各種大会で顕著な成績をあげたクラブや選手の名簿

- 表彰が平成六年二月五日に行われた対象となつた文化団体
関連一団、体育会関連五選手
三団体には、学生部を代表して
酒井誠助教授から表彰状と盾が贈られた。
由は次の通り。
☆自動車部ボクシング部
燃費競技大会(全国大会)一位
☆前野園バスケット(関東大学オースター代表、他)
☆澤直樹東大アメフトカンフットボール戦・ジュニアオースター代表
☆浦井宏一、八尋智少、林寺拳法・埼玉大初級部優勝(他)
☆山田直樹関東学生弓道選手権春季トナメント男子個人、双



自動車部NHK放映風景(11/27)

大学院工学研究科
修士課程修了は
二十九名

大学院工学研究科修士課程は三月二十日に修了式をむかえる。第十一期にあたる本年度修了生は、三専攻あわせて二十九名で、機械工学専攻三名・電気工学専攻十九名・建築学専攻七名である。また、博士課程(後期)からは、第一面で紹介の通り、君が本学第三号にあたる課程による博士(工学)を取得して、同課程を修了した。

今回の二十九名を加えて、本学大学院修士課程修了生は二八五名となる。

(機械工学専攻)

(建築学専攻)

(電気工学専攻)

今年度の就職戦線を
振り返って

野村 隆

今年度は一口で言はば大変な就職戦線であった。大変とは字通り大変、変化しただことを意味する。

パウル経済下つてもたらされた人手不足求人過熱による学生獲得競争はつい、昨年度のこのときを記憶新しい。このまま超売り手市場が買手市場へ移ってしまた大きな原因は不況にある。企業は不況対策としてリス

件数は前年より一割減少し、大手企業への就職者数が減って中小企業への就職者数が増えた。本学においてもその例にもれず同じような傾向にある。本学への求人数は前年度より約千件減って四、五〇〇件で、前年度より二〇%減少している。しかし求人数についてみると、前年より減少しているとは言え依然として多くの求人が寄せられ、各学科でも就職希望者の四倍以上の求人数がある。このことは各企業から本学生への高い期待の表れである。求人企業別にみると

前年と比べて建設業からの求人数は相変わらず多いが、電気機器製造業、情報産業、その他のサービス業からの求人数は減少している。この傾向はそのまま学生の就職先にあてはまっている。電気電子工学科の例をあげれば平成三年度の電気機器製造業に就職した学生は四三%、建設業に就職した学生は僅か五%であったが今年度は電気機器製造業への就職者が三三%と減り逆に建設業への就職者は三三%に増加した。今年度の四年生は厳しくいって就職活動の結果として浮ついた就職意欲が抑えられ、何故ならば彼らは就職ではなく就職先を指したからである。

平成五年度
主な就職先

工学部

【建築学専攻】
浅沼組 石原建設(株) 川田工業(株) 古久根建設(株) 三晃金属工業(株) 積水ハウス(株) 大成建設(株) 大成建設(株) 多田建設(株) 大東建設(株) 北ミサホーム(株) 東洋建設(株) 南海建設(株) ニッセキハウス工業(株) 東日本ハウス(株) 福田組 真柄建設(株) 谷商会
【設備工事業】
三和米電機工業(株) 大成温調(株) 千成電機工業(株) 東京電気工務所 日本コムシス(株) ユアテック
【製造業】
リンテック(株) 東洋バイロヒューム製作所 ヨシコン トコシエ電線(株) 協立工

アテック(株) 中国工業(株) 日立粉末冶金(株) 北海製鋼(株) 旭ダイモト(株) 三上條機械製作所 前澤給装工業(株) ミネベア(株) 宮内工業(株) 製作所 甲府工場 オリジン電気(株) 桂川電機(株) 川崎電気(株) KOA(株) コシア(株) 芝浦電子製作所 田淵電機(株) 大同信託(株) 千代田インテグレーション 東亜電機工業(株) 京エレクトロニクス 東光電気(株) 日特エンジニアリング(株) 日本光電工業(株) 日本電気(株) ホチキ(株) マプチモ

大学院

【製造業】
アドバンテスト 大崎電気工業(株) スミダ電機(株) 東京エレクトロニクス(株) 日本瓦斯(株) 日本タイプライター(株) 富士電機(株)
【その他】
私立学校教員・公務員

工友会青森県支部
設立総会開催

総会前日の吹雪模様の中、天候が一変して、久しぶりの青空が見えた青森市で、平成六年二月五日午後五時「ホテル青森」に於いて支部設立総会が開催された。初めに高橋工友会会長より挨拶があり、議事が進行し、これまでの経緯と役員紹介が行われた。予定されていた議案、終了の後、



青森県支部設立に集まった工友会会員

来賓を代表して、大川学長より三番目の支部設立のお祝いの言葉を頂戴した後、高橋工友会会長は「本学を卒業されたみなさんが社会に出て立派にやっておられる」ということ、これから続く後輩たちにとっても大きな目標となり

ます」と述べ、後援会青森支部設立を祝福した。また、同日午後六時から同ホテル内で、懇親会が開催され、岩山工友会青森支部長からの決意表明、小林学生部長からのお祝いの言葉を頂き和やかに旧交を暖めながら無事終了した。

去る平成五年十一月二十一日春日部市民文化会館大ホールにおいて、本学吹奏楽団による第十回記念定期演奏会が開催された。

日本工業大学吹奏楽団
第十回記念
定期演奏会開催

成人祝賀会講演会
講師は元閣僚蔵間

恒例の学内成人祝賀会が、一月十三日、学生自治会主催、大学・後援会・工友会協賛により開催された。当日は新成人を迎え、元閣僚蔵間氏を招いての講演会が行われた。蔵間氏は蔵間龍也に十の質問であった。

講演の後半では、体格の良い学生をステージに上げ、土



講演する蔵間